16　株式会社AGRIKO（あくりこ）　東京都世田谷区（せたがやく）

都市農業、農福連携、女性の活躍

都市型農福連携コミュニティファーム

活動の経緯

2014年から、新潟で稲作を手伝う中、2021年、家族の体調不良を契機に農業を継続することへの危機感を感じ、持続可能な農業を目指して株式会社AGRIKOを起業。農林水産省の農福連携技術支援者講習を受けて、障害者の工賃の低さを痛感。企業による障害者雇用により、安定した賃金や雇用環境で働ける仕組みを確立し、2022年4月に都市型農福連携ファームを開設。

活動の概要

循環型農法アクアポニックスを利用し農園を運営。地域の障害者雇用や子育て世代のお母さんの雇用を創出。

AGRIKO FARM桜新町全景

日常的に野外体験のある認定こども園

活動の成果、主な実績等

〇千葉県の放棄竹林の竹を使って、大学生と共同で栽培設備を制作、循環型農法アクアポニックス(養殖で出た魚の排泄物を利用した水耕栽培)の農園を運営。
〇障害特性に合わせて農作業をマニュアル化して、障害者施設と連携で、毎月体験実習を開催。希望者を、企業の障害者雇用とマッチングして雇用を創出、作業所の工賃(約2万円)に比べ、13万円程度の給与へと所得が増大。
　また、子育て世代の女性を、農福連携体験会をとおしてファームスタッフに雇用。
〇在宅で農園管理が可能なモニタリングシステムの導入や、農業ロボットの開発など、スマート農業を推進。これまでの取り組みが多くのマスコミから注目を浴びている。